

ぎふけんりつおおがきようろうこうとうがっこう
 学校名 岐阜県立大垣養老高等学校
 所在地 岐阜県養老郡養老町祖父江向野 1418
 の 4
 電 話 0584-32-3161

1 本校の概要

本校は、岐阜県の南西部に位置し、大垣農業高等学校と養老女子商業高等学校が統合されてきた、2年目の新しい高校である。1・2年生は、総合学科(ビジネス・会計・情報・生活福祉・大地の恵みの5系列)3クラスと農業科(生産科学・食品科学・環境科学)3クラス、3年生は農業科4クラスで、全校生徒は612名である。

平成18年東館(総合学科棟)が完成し、図書館は4月に本館3階から東館北棟の1階に移転した。

2 本校の実践の概要

図書館の方針を「読書生活の充実を目指し、心豊かな人間性と創造性の育成を図る」とし、読書習慣の確立に努め、生徒が集まる図書館・開かれた図書館作りをしてきた。

(1) 本校の実践の特色

① 平成14年度から朝の読書旬間を設け、平成16年度からは5月と10月の年2回全校一斉朝の読書旬間を実施している。朝のSHR前の10分間、担任と副担任がHR教室で生徒とともに本を読み、全教員が指導に当たっている(旧大垣農業高等学校)。

② 夏休みの課題として全生徒が読書感想文に取り組む。図書館と国語科が連携し、毎年大垣養老高校推薦図書を30数冊選定する。感想文はHR担任が選んだ後、国語科が更に選考し、校内読書感想文コンクールで表彰する。また、読書ゆうびんコンテストや応募作文にも挑戦している。

③ 図書委員会活動の活性化を図る。委員をカウンター当番・図書館だより・掲示物係

とし、日常の業務はもちろん、毎年学校祭では古本バザーと募金活動に取り組んでいる。また、季節やテーマに合わせた館内の飾り付けをし、長期休暇前には図書館祭りを開き貸出冊数や期間を増やしている。

④ 農業科の少人数のパート別の総合実習や課題研究において、パソコンの利用や調べ学習が多い。総合学科も個に応じたカリキュラムで、図書館を活用している。

(2) 家庭との連携、地域との連携

① 家庭で読まなくなった本を集め、学校祭で生徒や地域の人々に販売すると同時に、アジアの子どもたちの写真展と募金活動を実施。協力してくれた人には図書委員手作りの葉(葉脈、押し花)をプレゼントした。

② 古本バザーの収益金と募金で集まったお金を使って、カンボジアの子どもたちに「絵本を届ける運動」に参加。日本語で出版されている

絵本に訳文をはり付け、現地に18冊届けた。



3 成果と今後の課題

(1) 上記のような実践の結果、図書館に足を運び、本を選ぶ生徒が多くなった。

〈生徒一人当たりの貸出冊数の推移〉

年 度	14	15	16	17	18
貸出冊数	3.1	10.8	10.9	8.3	1.6

(平成17年度は工事で1か月閉館、18年は5～7月現在)

新図書館は広く落ち着いた雰囲気でのよいが生徒のHR教室と離れているので、各教科との連携を密にして授業での利用を図ってきたい。

(2) 今年度からコンピュータによる本の貸出しを実施する運びとなった。環境面は以前に比べ各段に良くなってきている。個に応じた読書の深化を目指し、利便性を高めていきたい。